

2024（令和6）年の大阪経済

－大阪経済は、一進一退で推移した－

商工労働部（大阪産業経済リサーチセンター）は、府内の経済動向について四半期ごとに『おおさか経済の動き』としてとりまとめています。このたび、2024（令和6）年の年間の経済動向を『2024（令和6）年のおおさか経済の動き』として発行しました。その概要は以下のとおりです。

2024 年の大阪経済は、一進一退で推移した。需要面では、消費は、年初は減少傾向となったが、年の後半は持ち直して推移し、設備投資は前年から概ね横ばいの水準で堅調に推移した。外需も力強さを欠くものの持ち直して推移した。一方、生産は、昨年後半からの減速基調が続き低下した。雇用は、就業者数の増加や完全失業率が横ばいであるなど持ち直しの動きで推移した。企業の業況は、緩やかな持ち直しが続いたが、業況のプラス水準は、製造業よりも非製造業の方が高い傾向であった。

【目次】

要 約

第1章 大阪経済は、一進一退で推移

1. 実質経済は、プラスながら前年を下回る成長
2. 大阪府の景気は弱い動きで推移
3. 需要は一部に弱い動きがみられるが、持ち直して推移
4. 生産は、年後半に減速
5. 雇用は持ち直しの動きで推移
6. 企業業況は緩やかな持ち直しが続いた

第2章 2024 年の経済動向

第1節 需要は一部に弱さがあるものの緩やかに持ち直して推移

1. 個人消費は緩やかに持ち直して推移
2. 住宅投資は横ばい
3. 民間設備投資は堅調に推移
4. 近畿圏の輸出入額は、ともに2年ぶりのプラス
5. 日本人の観光需要は、年後半に伸び悩んだ

第2節 産業活動は、弱含みで推移

1. 生産活動は、3年連続の低下
2. 有効求人倍率は、年後半に下降基調が底打ち
3. 消費者物価は上昇、国内企業物価も上昇
4. 大阪の企業倒産は件数、負債総額とも増加

第3章 2024 年の企業動向

第1節 企業の業況は弱含み傾向に

1. 企業の業況は、概ね弱含みで推移
2. 営業利益は漸減傾向で推移、資金繰りは低下基調
3. 雇用不足感は高水準も、雇用予定人員は弱含みで推移

第2節 中小企業の業況は、弱含みで推移

1. 出荷・売上高は弱含みで推移、営業利益判断はわずかに改善の兆し
2. 業況は低下傾向で推移し、原材料価格や仕入単価の上昇が大きな課題

主要経済指標